

原水爆禁止世界大会 **長崎** に向けての 平和学習会に**24人**が参加

原水爆禁止世界大会（長崎）が8月7日～8日（台風の影響により日程短縮）に開催されました。参加にあたり、7月24日（月）に平和学習会を行い、士気を高めました。



学習会は原水禁世界大会参加者を中心に24人が参加し、初期研修医の緒方隼さんから、「なぜ平和運動をするのか、ごく個人的視座より考えるか」、大阪原水協の続昌司さんから「原水禁世界大会の歴史と意義」について、DVD「人間をかえせ」の視聴とあわせて、お話しいただきました。

参加者は、ロシアによるウクライナ侵略が長期化するなど人々の命や暮らし、人権が脅かされる中、あらためて平和について学ぶ機会となりました。

当日の様子は次号でお知らせします。

事前学習会の感想

- 被爆者は（当時のことを）二度と思いだしたくないとありましたが、それでも現在私たちに伝えてくれているということに感謝し、さらに未来へ受け継いでいく義務があると思いました。
- 広島や長崎で実際に起きたことだと信じられないほど苦しい映像でした。被爆者の方々の平和への思いが伝わってきました。戦争をしてはいけないと改めて思いました。
- 緒方先生の言葉で、戦争は人為的に防止可能な死亡原因の一つ、この言葉の重みをすごく感じました。
- 戦争反対は人命を守ることにつながるという当たり前のことについて、改めて考えさせられました。

大阪民医連社保平和委員会主催

社保ピースセミナー はじまる

社会保障や平和についての
知識や理解を深めよう



6月16日、大阪民医連第7期社保ピースセミナーの1回目が開催されました。社保ピースセミナーとは、大阪民医連社保平和委員会主催で2017年から始まった、大阪各地を訪問し学習する移動教室型の研修です。対象はおおむね20～30代の法人推薦者で、社会保障や平和についての知識や理解を深めることを目的に、月1回の研修を6回に分けて行います。

主催は大阪民医連ですが、実際の研修内容の決定などは各法人から集められた実行委員が行います。今回、私はその実行委員会に選出され、研修内容の企画立案や開催場所の選定などに携わっています。社保ピースセミナーへの参加自体が初めてで、戸惑うことやうまくいかないことも多いですが、「自分たちの学びたいことややりたいことを考え、計画し実行す

る」という、普段の業務では経験できない機会をいただき、とても感謝しています。

さて、記念すべき第1回ですが、午前中は西淀病院の山岡事務長より、民医連の歴史・社保平和運動に取り組む理由を説明していただき、講演をもとに参加者でグループワークを行い、社会保障についての自分なりの理解やこれまでの関わりなどを話し合いました。午後は、淀川勤労者厚生協会の湊隆介さんにLGBTQに関するご自身の思いやこれまでの経歴を話していただきました。

今回、大阪全体で17人が参加の中、同仁会からは私を含めて3人の参加で、職員数から考えると寂しく思いますが、来年は実行委員も含めて、若手職員から積極的な参加があることを期待します。また、同仁会の各事業所や職場の上司の方々も、この取り組みの趣旨を理解いただき、若手職員に貴重な学びの機会を提供していただければうれしく思います。

（社保ピースセミナー 実行委員 濱田 優美花）

みみはらグループ

7月8日 第23回医療介護安全大会開催 みんなで育む

医療介護の安全文化

会場とWebあわせて437人の参加がありました。田端理事長より、この間、「まず診る、援助する、何とかする」を、みみはらグループ全体の力で実践してきた3年間であり、これまで私たちが

培ってきた安全文化や危機管理の賜物であることを確認し、今後も「人権の感性」を鍛え、想定外への対応を前提とした、強い組織づくりを目指そうと訴えられました。各事業所からの報告のあと、

健康友の会みみはら江戸会長からはセラチア院内感染事故を知る職員も少なくなる中、語り継ぐ重要性が強調されました。

学習講演は「ポストコロナ時代の仲間づくり#SOC・心理的安全性」がテーマで、私たちの社会や職場は「あなたは大切な存在だ」というメッセージを発しているかを

問われ、心理的安全性を担保しお互いのSOCを高めあう仲間づくり、広くゆるくつながる社会と結ばれました。最後に泉州メディカ和田理事長より、みみはらグループ職員が心をひとつに、安全の確保と危険回避を常に意識していきこうと呼びかけられ閉会となりました。